

- Himalaya during the late MWP.
- Briffa, K.: An assesment of tree-ring evidence for MWP in northern Europe.
- Bitvinskas, T. and Daukantas, A.: MWP in the Baltic region: evidence from tree rings.
- Graybill, D. and Shiyatov, S.: Tree-ring evidence of summer temperature change in northwest Siberia.
- Serre-Bachet, F.: Middle Ages temperature reconstruction in Europe. A zoom on the 45°N-10°E geographical point.
- Chbouki, N. and Stockton, C.: Frequency of droughts during the last Millennium in Morocco.
- Stahle, D. and Cleaveland, M.: Tree-ring reconstructed rainfall over the southeastern U.S. during the past Millennium.
- Leavitt, S.: Wet MWP reflected in $\delta^{13}\text{C}$ of bristlecone pine rings.
- Graumlich, L.: A 1000-yr record of temperature and precipitation in the Sierra Nevada.
- Stine, S.: Extreme drought in California Sierra Nevada during Medieval Time.
- Swetnam, T., Graybill, D., Graumlich, L. and Hughes, M.: Maximum fire frequencies in giant sequoia groves during MWP.
- Kalin, R. and Davis, O.: Radiocarbon fluctuations during the MWP and calibration to calendar time.
- Davis, O., De Lanois, J. and Kalin, R.: The effects of rapid climate events, including the MWP., on winter and summer precipitation in the southwestern U.S.
- Petersen, K.: A warm and wet Little Climatic Optimum in the Southern Rocky Mountains.
- Luckman, B.: Evidence for the Little Climatic Optimum in the Canadian Rockies.
- Anderson, R., Bradbury, J.P. and Dean, W.: Bicentennial oscillation of regional surface winds, Elk lake, Minnesota and secular variation of radiocarbon: Analog for climate/solar relationships for MWP.
- Baumgartner, T., Soutar, A., Ferreira, V. and Byrne, R.: The paleoecological record from the varved sediments of the Santa Barbara basin.
- Bryson, R.A.: Some regional aspects of the Neotatlantic Climatic Episode.
- Card, V.: Seasonal climate records from laminated lake sediment: A method.



若手研究者への科学研究助成の募集案内

記

1993年度「笹川科学研究助成」の募集

(1) 助成の対象

人文学，社会科学及び自然科学（医学を除く），
または境界領域の研究課題

(2) 助成額

1件あたり100万円以内（1年間）1992年度は
152件

(3) 助成対象者

満35歳以下の若手研究者

(4) 募集期間

1992年9月10日～10月31日

(5) 応募方法

所定の申請書により直接応募して下さい
この件に関するお問合せ先・申請書請求先
〒105 東京都港区虎ノ門 2-9-16 日本消防会館
内
財団法人科学協会 笹川科学研究助成係
TEL 03-3502-1931 FAX 03-3580-8157

- 気温, 日射特性. 農業気象, 45(4), 235-242.
- 防霧林研究会, 1953: 防霧林に関する研究会(Ⅲ). 林試報, 64, 1-124.
- 福富孝治・須川 明, 1953: 霧中における湿度の一測定. 低温科学, 11, 19-17.
- 井上君夫, 1987: 昭和63年(1988)冷害の農業気象学的解析と今後の研究課題. 農業気象, 45(3), 165-171.
- ・阿部博史, 1990: 久慈沿岸で観測される海霧の微気象特性. 東北農試研報, 81, 19-31.
- , 1990: 昭和63年気象の経過と特徴. 昭和63年冷害の記録, 東北農業試験場・農業研究センター, 1-12.
- 十文字正憲・内山晴夫, 1989: レーザ・レーダによるやませ観測. 東北の農業気象, 34, 54-55.
- 海霧研究グループ, 1985: 釧路地方における海霧の観測. 天気, 32, 41-52.
- 近藤純正, 1981: 地表に近い大気. 東大出版会, 107-111.
- , 1982: 大気境界層の科学. 東京堂出版, 67-77.
- 工藤敏夫, 1982: 1980年冷夏における「やませ」の振舞. 東北の農業気象, 27, 39-42.
- 黒岩大介, 1953: 霧水量の乱流拡散と雛型林の防霧効果. 低温科学, 11, 39.
- ・大喜多敏一, 1959: 最近の霧の研究とその展望. 気象研究ノート, 10
- 野本真一, 1976: 視程の変動. 天気, 23(5), 235-253.
- 萩原折二, 1944: 霧及び雲滴の蒸発. 気象集誌, 22(4), 22-30.
- Paltridge, G.W., 1974: Infrared emissivity, short-wave albedo, and the microphysics of stratiform water clouds. J. Geo. Res., 79(27), 4053-4058.
- 佐々木信介・ト蔵建治, 1972: 「やませ」の気象学的特質. 東北地域災害科学研究, 45-62.
- Sasyo, Y., 1968: Studies and developments of meteorological instruments for cloud physics and micrometeorology. Papers in Meteorol. and Geophys., 19(4), 587-598.
- 沢井哲滋, 1990: 霧の Nowcasting. 天気, 37(8), 509-518.
- 竹内政夫・石本敬志・野原他喜男・福沢義文, 1984: 霧の消散機構及び防霧効果に関する研究. 科学技術庁研究調整局, 112-134.
- Taylor, G.I., 1917: The formation of fog and mist. Quart. J. Roy. Meteorol. Soc., 43, 241-260.
- 上田博・八木鶴平, 1984: 北海道釧路市における市街地と郊外・海岸での海霧の観測. 天気, 31, 137-145.



第42回科学講演会開催計画

主催: 財団法人 東レ科学振興会

千葉県浦安市美浜一丁目8番1号(東レビル)

TEL (0473) 50-6104 FAX (0473) 50-6082

後援: 朝日新聞社

とき: 1992年10月26日(月)

開場: 17時30分

開演: 18時00分 終演: 20時45分

ところ: 有楽町朝日ホール

東京都千代田区有楽町 2-5-1

有楽町マリオン11階(JR線有楽町駅前)

テーマ: “自然科学の原点, 博物学について考える”

～ナチュラル・ヒストリーのすすめ～

I. 博物学的発想とはなにか

京都大学理学部教授 日高 敏隆

II. 博物学としての生化学

北海道大学名誉教授 茅野 春雄

その他:

★入場無料, 定員 638 名(予約なし・先着順)

★ご来聴の方には, 後日講演記録集を進呈致します

った。気さくで冗談好きのラリー、気配りの行き届いたナンシー夫人、僕にとっても他人ではなかった。驚きであった。

「では、聖歌430番」、牧師の声が聞こえる。「主よ、みもとーとに、ちーかづかん。」隣の山本君が歌っている。この歌は知っていた。僕も歌う。女の子はお行儀よくし

ている。

最後に献花があった。遺影が近くに見える。村山さんは少しよそゆきの表情だった。穏やかな顔だった。村山さん、さようなら。そう思った。

(気象研究所 能美武功)



第29回自然災害科学総合シンポジウム開催のお知らせ

重点領域研究「自然災害」総合研究班

期 日：1992年11月4日(水) 9:00~14:00

会 場：秋田市文化会館 3階

(JR秋田駅より徒歩30分、バス15分、タクシー10分)

テーマ：

1. ワーキング・グループ成果報告

- (1) 地滑り・斜面崩壊の事例収集と災害解析
(三重大生物資源 林 拙郎)
- (2) 集中豪雨時の斜面崩壊に対する火山地盤環境の影響
(熊本大工 北園芳人)
- (3) 1993年広島地震を想定した都市防災に関する研究
(広島大工 金丸昭治)
- (4) 火山性津波の災害予測に関する研究
(北大理 西村裕一)
- (5) “災害の進化”の事例研究
(富山大教養 藤井昭二)

2. 突発災害調査報告

- (1) 1991年雲仙における土石流の調査研究
(九大工 平野宗夫)
 - (2) 1991年サイクロンによるバングラデシュの高潮・強風災害
(京大防災研 桂 順治)
 - (3) 1991年フィリピン・ピナツボ火山噴火災害の調査研究
(東大地震研 藤井敏嗣)
 - (4) 1991年台風19号による強風災害の調査研究
(京大防災研 光田 寧)
- #### 3. 計画研究成果報告
- (1) 火山災害の規模と特性
(北大理 荒牧重雄)

問い合わせ先：〒010 秋田市手形学園町 1-1

秋田大学教育学部 自然災害秋田大会
実行委員会 野越三雄

TEL 0188-33-5261 (内線2585)

FAX 0188-36-6738

著作権（複写権）の集中処理方式が最も現実的である。この方式は、多数の権利者から複写権の委託を受け、その複写権について利用者に許諾を与え、使用料を徴収し、権利者に分配する業務を行う機関を設置することにより、利用者は、個々の権利者と直接交渉することなく、当該機関と契約を締結することによって、著作物を複写利用できるようにするものである。

④ 国際的には、既にアメリカ、イギリス、ドイツ等18カ国において、このような集中的に権利処理を行う機関が設立されている。わが国でも集中的権利処理機関を設立することが長年の課題であった。

(2) 目的

出版物の複写に関し、著作権を擁護するとともに、著作物の公正な利用を図り、あわせて著作権思想の普及に努め、もって学術文化の発展普及に寄与する。

(3) 事業

① 複写権の委託を受け、複写の利用者との間に立って、利用を許諾し使用料を徴収して権利者に分配する。

② 複写権の処理に関する照会等の対応、複写権処理に関する会員相互の連絡調整、著作権思想の普及事業、複写権に関する外国の権利者団体との連絡および提携等、本センターの目的を達成するために必要なことを行う。

③ 円滑な運営が確保された段階で日本複写権センタ

ーを社団法人化する。

(4) 会員団体

日本文芸著作権保護同盟、日本脚本家連盟、美術著作権連合、全日本写真著作者同盟、日本グラフィックデザイナー協会、学協会著作権協議会、出版者著作権協議会、日本書籍出版協会、日本雑誌協会、自然科学書協会、出版梓会、日本図書教材協会、日本専門新聞協会

(5) 役員

会長 近藤次郎（日本学術会議会長）

理事長 大林 清（日本文芸著作権保護同盟理事長）

など

6. 補足

① 著作物の委託料（著作権者；気象学会）

著作権者は複写権の委託料を日本複写権センターへ支払う。気象学会の場合は、2,000円程度の一時金となる。

② 著作権使用料（複写利用者）

複写権の利用者は日本複写権センターと利用許諾契約を結ぶ（4つの契約方式がある）。契約方式に基づき複写量を算定し、著作権使用料を同センターへ支払う（基本単価1頁2円）。

③ 使用料の分配（日本複写権センター）

複写利用者の複写状況に応じて、著作権者へ使用料の分配を行う。ただし、当面はセンター設立諸費用に充てるため分配は行わない。



井上フェローの採用を希望する研究者の募集について

財団法人井上科学振興財団では、自然科学の基礎的研究に関し、新分野の展開を志す年齢45歳未満の優秀な研究者に対し、研究者自身が選定した若い研究員を井上フェローとして採用し、当該研究の推進に協力させる方途を開く。

井上フェローは、全体で5名、博士号取得者（年齢35歳未満）、フェローには月額30万円の研究奨励金を給付、

期間は2カ年、但し、自己の研究室以外から選択すること。

本件につき希望者は、本年10月末日（月）までに、直接下記に連絡されたい。

財団法人 井上科学振興財団

〒150 東京都渋谷区猿楽町 11-20

TEL 03-3477-2738 FAX 03-3477-2747

シンポジウム

“都市の豪雪” — ここまで来た降雪の観測と予測 —

1. 日時 大会第1日(10月7日) 15:00~17:30
2. 会場 北海道厚生年金会館3階
3. 座長 播磨屋敏生(北大・理)
4. 講演
 - 村松照男(札幌管区): 豪雪の実態と予報の現状
 - 上田 博(北大・理): 石狩湾周辺の渦状擾乱の内部構造
 - 藤吉康志(名大・水圏研): 下層風からみた石狩湾上の降雪雲の形成過程
 - 浅井富雄(東大・海洋研): 冬季日本海上に発生する帯状雲と小低気圧の数値実験
 - 二宮洸三(気象庁・予報部): 降雪をもたらすmeso- α -scale lowを含む多scale process
5. 総合討論

研究会のお知らせ

大会に合わせて下記の研究会が行われます(7月29日受付分)。興味のある方はご自由にご参加下さい。プログラムの詳細については「天気」8月号をごらん下さい。

1. 第4回メソ気象研究会

日時: 10月6日(火) 13:30~17:00

会場: 札幌市教育文化会館(大会会場)3階・中研修室

テーマ: 「メソ現象と雲物理のはざまにて」

コンビーナー: 上田 博(北大・理)

2. 第4回大気-海洋相互作用研究会

日時: 10月6日(火) 13:30~17:15

会場: 北海道大学低温研究所 講義室

テーマ: 「高緯度域での空と海と氷の相互作用」

コンビーナー: 竹内謙介(北大・低温研)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。



気候コロキウムのご紹介

気候コロキウムは気候に関心のある人の自主的な研究会で、関東地方を中心に、毎月、例会を開いています。もともとは地理学の1分科として気候学専攻の若手研究者の集まりでしたが、現在は地球物理系、工学系、農学系からも多くの参加があります。

10月例会は、10月10日(土)9:30から、北海道大学低温研究所 212号室で行われます。演題は次の通りです。

仲山智子(北大・低温研): 地球温暖化にともなう活動層の厚さの変化とそのフィードバック効果について

(注: 活動層とは、永久凍土の上にある季節的に水分が凍ったりとけたりする層をさす)

岩崎一孝(北大・文・地理): アフリカ南部の気候 — 1987~1990の科研費調査の報告をかねて —

連絡先 松山 洋(東大・理・地理) 電話 03-3812-2111 内線4580, Fax 03-5684-0518 (事務室)

e-mail matuyama@geogr00.geogr.s.u-tokyo.ac.jp